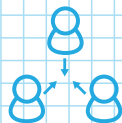


パートナーシップで解決する



複雑化する社会課題を解決するには、さまざまな立場の人たちが、知恵や情報、資源などを持ち寄り、力を合わせて、課題を解決するパートナーシップが必要です。

ビジョンを共有し、意識とプロセスを分かち合うことで、組織の「縦割」を乗り越え、ひとりひとりが「変革」の当事者として、モチベーションを持って、関わりあっていくためにパートナーシップのポイントを整理しました。

仮想事例：過去

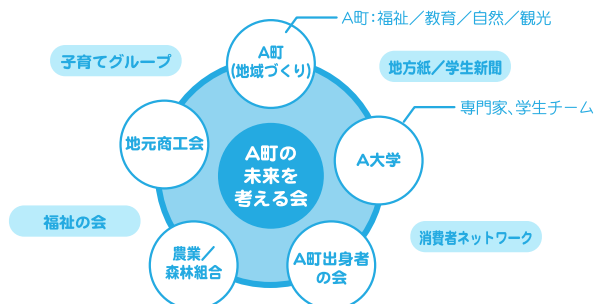
自然環境が豊かなA町は、伝統的に一次産業が盛んで、農業・林業で栄えてきました。1970年代には巨大な工業団地も設置され、工場が誘致された結果多くの雇用を生みましたが、近年は工場の海外移転が進み、新たな産業の創造が課題となっています。地域を活性化させようと、行政の助成金により幾つものプロジェクトが生まれましたが、助成期間終了後に活動が定着しないなど、課題があった。



各関連団体が事業遂行のために、定期会合を開催。メンバーの顔ぶれは同じで議題は業務の進捗状況の共有がメインだった。

仮想事例：現在

そこで、A町の未来を考えるための対話を促すプロジェクトが試験的につくられた。



継続的に地域の未来を考える場をつくるために、多様な人たちが対話するプラットフォームを設計。公的・民間資金の活用や人材育成などを含む中長期的視点から、地域の可能性が可視化され、ビジョンを共有する複数のプロジェクトが自発的に生まれた。

パートナーシップのつくり方

1. 集まる

地域の課題に関する利害関係者(ステークホルダー)がフラットにつながる場をつくる。その際、強い課題意識を持つ行政やNPOだけでなく、企業や学校、地縁組織のような地域に影響を持つ団体やキーパーソンを交えることが重要。

2. 共有する

課題に関する認識や意見、具体的な問題などを共有する。専門家の意見だけでなく、多様な参加者の意見に耳を傾ける。また、課題だけにとらわれず、求める将来像を共有し、課題を乗り越える上に必要なアクションを洗い出す。

3. 実践する

具体的な活動計画をつくり、役割分担を決める。具体的な成果を感じやすい小規模なことから着手するとよい。それぞれの組織がどのような資源(人員や情報など)をもち出せるかを検討し、意思決定のルールを決め、実践体制をつくる。

4. 広がる

実践の成果を振り返り、課題解決とビジョンの達成に向けて、必要に応じて活動を発展させる。活動体制の見直しや、新たな体制の構築が起こる。近隣地域や外部の団体との連携など、新たなメンバーとの交流が生まれることもある。

パートナーシップで大切なこと

変革の促進

これまでに培ってきたやり方に捉われず、新しいやり方に挑戦する勇気を持つことも必要だ。年配の熟練者が若い世代の意見に耳を傾け、新しい視点を取り入れることもその一つである。大切な物を守りつつ、同時に変化も受け入れよう。

プロセス支援

複雑な課題を解決するには「その道のプロ」だけではなく、客観的な視点をもって「変化を起こすこと」のプロが必要。第三者的立場の人が中立的にプロセスに関わることで、よりスムーズに変化が促される。

中間支援の4つの役割

問題解決の提示

目の前の課題に集中するあまり、活動の推進者が、自分のアイデアに周囲を合わせる方向に向かってしまうことがある。衆の関心や要望を理解した上でアイデアの枠を広げ、変化のために必要な「問い」を明らかにすることが必要である。

資源の連結

効率的な課題解決のために、資金、知見、技術など変革に関わるあらゆる資源を動員する必要がある。協働取組の内部と外部に存在する資源を発掘し、それを有機的に結びつけることが求められる。